

「発達障害のある人たちの就労に関わる問題」 <直面する困難とは何なのか?>

発達障害のある人の大人の数について、正確なデータはありません。参考として、通常学級における発達障害のある子どもの数を再掲します。

参考：通常学級の発達障害のある子どもの数



通常学級の子どもで発達障害のある割合

発達障害が疑われる子は **全体の6.5%**

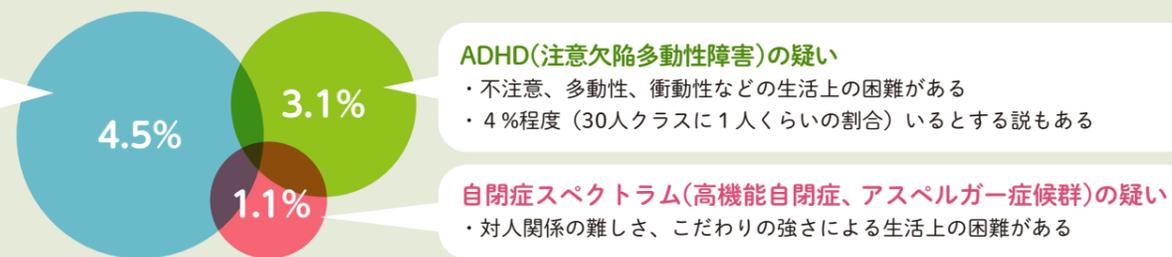
注) 全国の公立小中学校の通常学級に在籍する児童生徒の行動特性について、担当教師が回答した結果に基づいている

LD (学習障害) の疑い

- ・「読む」「書く」「計算する」などの学習上の困難がある
- ・4.5%の学習障害の中には学習困難も含まれる
- ・学習障害に特定すると約2~3%といわれている

参考：文部科学省「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」2012年)

2012年の文部科学省の調査による、公立の小中学校の通常学級に在籍している発達障害のある子どもの割合。ひとりの子どもに複数の症状があてはまることも多い



ADHD (注意欠陥多動性障害) の疑い

- ・不注意、多動性、衝動性などの生活上の困難がある
- ・4%程度 (30人クラスに1人くらいの割合) いるとする説もある

自閉症スペクトラム (高機能自閉症、アスペルガー症候群) の疑い

- ・対人関係の難しさ、こだわりの強さによる生活上の困難がある

発達障害のある人の就労・・・直面しがちな困難事例

高校生活・大学生活

学校生活

- ・やる気にムラがあり、成績が不安定
- ・感覚過敏のため、先生の話に集中できない
- ・遅刻や忘れ物が多く、先生からの評価が下がる
- ・学校生活や部活動のなかで、「他の人が当たり前のようにできること」ができず、集団から孤立してしまう



人間関係

- ・話を合わせたり、相手の思いをくみ取って行動したりすることが苦手で、交友関係がうまくいかない
- ・自分の障害について理解したうえで相談に乗ってくれる人がおらず、学校生活や進路について適切なアドバイスを受けられない



就職活動

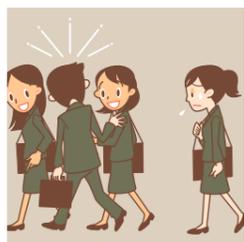
就職活動

- ・情報整理やスケジュールを立てて物事を進めることができず、活動が遅れがちになる
- ・筆記試験は合格しても、面接で落とされてしまう
- ・面接やグループディスカッションは正解がなく、コミュニケーション能力の高さや臨機応変さが求められるため、受からない
- ・マイナス思考が強く、選考で落ちるたびに必要以上に落ち込んでしまう



人間関係

- ・交友関係がせまいため、友人との情報交換や、困ったときの相談ができず、「(一人) ぼっち就活」になってしまう
- ・「面接が受からない」など就活中の悩みを相談しても、発達障害の特性を考慮した回答を得られず、お互いに不信感を持ってしまう



入社・就労

社会人としての生活

- ・遅刻や物忘れが多い、自席の整理整頓ができない、挨拶ができないといったことから、同僚や上司からの評価が下がる
- ・他の人のおいや周りの音などに耐えられず、満員電車に乗ることができない
- ・規則正しい生活ができず、睡眠時間が短くなるなどして業務に支障をきたしてしまう
- ・状況によっては、職場で激しい眠気に襲われる人もいる



業務の遂行

- ・段取りをつけるのが苦手なため、仕事を納期までに終わらせることができなかつたり、人より仕事が遅いと指摘されたりする
- ・話をまとめることが苦手なため、報告や相談が不必要に長くなってしまふ
- ・「急がない」と言われた仕事を長い間放置してしまうなど、言われたことを文字通りに受け取ってしまう
- ・興味のない事務作業ではミスが続発してしまうなど、得意分野と不得意分野の差が激しく、不得意分野の「できない」レベルが著しいため、まわりから不信感を持たれる。
- ・体調や気候などさまざまな要因に仕事の成果が左右され、成果のばらつきが大きい
- ・電話をしながらメモをとるなど、マルチタスクに対応できない
- ・予定外の仕事やクレームが苦手で、対応できない



人間関係

- ・空気を読んで行動することが苦手なため、「コミュニケーション能力が低い」とみなされてしまふ
- ・普段の雑談や飲み会での会話についていけず、職場で孤立してしまう
- ・上司や同僚からの叱責がひどかったり、人間関係の悪化が理由で退職や退職せざるを得なくなることもある

